

ずいそう

顔に責任が持てるか？

井口 勇二



それは昭和52年就学を終え、現在勤務する会社で初めて配属された技術部でのこと。新人研修期間中に、工場内での製造作業手伝をする中で、その片隅に実用用の生コンプラントが設置されているのは知っていた。ところがその設備が何に使われるのか知識も無く興味も持っていなかった。ところがある日「明日は試験練りがあるから上司の指示に従って作業を手伝うように」。その当時は何も考えずにとりあえず「上司の指示に従って一生懸命やっていたらいいのだ」位にしか考えていなかった。従ってその実験が何を目的に何をするのかも考えずに行った。当日は白衣を着た来客(後日分かったのだが建設省と大林組の方だった)含め総勢20人前後が参加。大きな砂利(80mm)・砂を天井クレーンで吊り上げ貯蔵ビンに入れていく。セメントは20kg袋で準備。生コンが練られ排出されてくる。パサパサだ。ショベルで受け約直径50cm、高さ80cm位の鉄製容器3個に生コンを詰めていく。それを別々のパレットに移し替え水洗いする。「君達の出番だ」と声がかかり新人二人で篩いを両側から持って数種類の骨材に分類していく。腰が痛い、きつい。それが終わると選別した砂利ごとにタオルでその表面の水を拭き取っていく。喉が渇く。何も知らないものは強いもので、その水(使用されていた水は循環水だった)をガブ飲みする。少し泥臭いが仕方ないか。一連の作業が何を意味しているのかさっぱり理解していない。が、作業を終えミーティング後の会社幹部の機嫌が良かったのは記憶している。そうだったのです。これがダムのRCD工法に供するコンクリートの練り混ぜ性能試験だったのです。(それを知ったのは相当後になってからであるが。)その後、先輩諸氏の努力で建設省発注の島地川ダム工事(大林組大本組共同企業体)に初めて2軸強制練ミキサーが採用されたのである。

ところが、私はと言えば今振り返ってみて何ともったいないことをしてしまったのだろうかと思ってしまう。「明日は試験練りを手伝え」と指示を受けた時にもう少し先輩に質問していれば、もっと違うことを感じ習

得していたのかも知れない。しかも知らずに循環水まで飲んでしまったのに。

毎年荒れる成人式のテレビ映像を見て思うことがある。自分はいかに傍若無人な振舞いはしなかったが、果たして彼らと何が違うのか。ほとんど大差無いのではないかと。若者の特権である「疑問を持って質問する。勉強する。行動に移す。失敗する。再度チャレンジする」。やってきたか？

アメリカの第16代大統領リンカーンは、自分にある人物を取り立てるように推薦してきた人に対して、「彼はダメだ。顔が悪い。人は40歳にもなれば、顔に責任を持たなければならない」と答えたと言う。確かに人の顔はその人を直感的に判断するときの大きな材料である。両親から受継いだその顔貌は自分では変えることが出来ない。特に男女の関係においてはその影響は非常に大きい。本質を知るまでは。しかし、顔つきは本人の後天的な努力によりいくらかでも変わってくる。又変えられるのである。人間の持つ知性・自信・優しさ・狡猾さ・高慢さ等その顔つきに現れる。それらはその時々のものであるが、全て自分自身である。従って、その顔に責任を持たなければならないのである。

それはさておいて、話を自分のところに戻そう。鏡に映る顔は年相応に髪が薄くなり、シミ・皺が多い。どうも人よりも多そうだ。だがどうであろう。新人時代にRCD工法と言う新技術の開発の傍に居ながらチャンスを逃してしまった。その受身の姿勢がどうなったのか？ それ以降も無駄飯ばかり食って不平不満だけを口にしていないか？ ウーン、中々厳しいぞ。毎日鏡を見て、心の中をチェックして、何が欠けているのか、自問自答しなければならない。人は死ぬまで勉強と言われるが向上心を持ち、まだまだやりたい事、やらなければならない事が色々あるだろう。年は取っても日々若者の気持を持ち前向きに努力を怠る事無く、自分の顔に責任を持って生活したいものである。